

啓伸塾 便り

11月霜月
November

〒五〇一・六〇五一
岐阜県羽島郡笠松町上本町三十六

啓伸塾

発行者 福井 伸次

社会に出るから必ず役立つ義務教育の知識

私は、週に一回は書店に行きます。何も読書家ではありません。ただ、本が置いてある空間が好きなのです。だから、図書館も同様です。

書店に行っても、何か本を買つ目的があるわけではありません。趣味の車雑誌や釣りの本、料理の本を見て、新刊の文庫本や新書を、「今度は何を読もうか」と探して回ります。そして、最後は、小・中学生向き参考書・問題集のコーナーを見ます。

この書店にも、そのお店のお勧めの本が、お勧め理由のキャッチコピーとともに、店頭の目立つところに置いてあります。

陳列の仕方もいろいろで、わかりやすく自分の波長に合う、自分好みの書店は頻りに訪れます。

そんな中で、中学の参考書を見ていたら、その近くに職業の資格試験の本のコーナーがありました。

「そういうえば、工業高校に行きたいといっていた子がいたなあ。」と手に取った本が次のような本です。

「電気の基本知識 知らない現場で困る電気と機器の基本を明快に解説」というタイトルの本です。

パラパラと中目を通してみると、何が何だかわからない専門用語や数式のページといっしょに「四則計算・分数の計算・方程式・不等式・因数分解・三平方の定理」といった中学で習う数学の解説、問題もいっぱい載っています。

学力は学習量に比例する

学習量とは、学習時間ではなく、自分の頭で考え、解いた問題量です。ただ見て書いただけでは、学力は向上しません。この言葉は塾内に貼ってあります。 3

家庭での学習に宿題があります。塾から宿題として出している問題は、反復をすることによって習熟する問題です。

例えば、数学では、計算問題であったり、基礎的な文章題であったり、今までやったことのある問題の類題なので、わからない問題ではないはず。宿題は毎回出していますので、保護者の方で確認してみてください。ひとりひとりの宿題の出来具合を指導の参考にしています。

以前、こんなことがありました。岐阜市内の同じ進学校に入学した2人の子の話です。ここではAさんBさんとしましょう。Aさんは、「高校では宿題がいっぱい出て大変だ。」と嘆いていました。しかし、Bさんは「そんなことはない。余裕でやっている」と言っていました。なぜ、この違いが出たのでしょうか？

Bさんは、中学3年の時、自分の点数が志望校の合格ラインぎりぎりの時があったので、大変頑張って、たくさん問題をこなしていました。

しかし、Aさんは、あまり危機感を抱かず(志望校ギリギリの点数でしたが)、努力をさぼることなく、合格してしまいました。

高校では、たくさん宿題が出されます。それをたくさんと思うか、思わないかは、中学の時に努力して、数多くの問題を消化したかどうかによって違ってきます。

中学時代には、宿題をやることによって、速く正確に問題を解く習慣をつけてほしいと思います。この習慣がついていない子は、高校の勉強についていけなくなります。

保護者の方もそのことは十分ご存知だと思います。高校での学習姿勢の良し悪しで、その後の人生が違ってくるといっても過言ではありません。

今月の予定

3日(水)文化の日 授業を行います

6日(土)中3 入試対策 午前9時30分~12時(時間変更に注意)

7日(日)第3回岐阜新聞学力テスト(中3生)塾の教室にて

13日(土)・14日(日) 中学生後期中間テスト対策

23日(火)勤労感謝の日 授業を行います。

中間テスト対策については、別紙にてご連絡しています。

五教科の勉強が苦手だからと工業高校に進学するという子がいますが、高校で習う専門の勉強には、このように中学の勉強も必要だということなのです。

世界のホンダの創始者 本田宗一郎は、小学校を卒業してから自動車修理工場に丁稚奉公しました。

そして、仕事を任せられるようになると、経験からだけではどうにもならない学問的な壁に突き当たり、現在の静岡大学工学部機械科の聴講生となり、金属工学を勉強しました。

漁師になるには航海計器を正確に読み取る読解力が必要です。それには高校の数学で習う三角関数の知識が必要です。その三角関数のもととなるのが、中三の数学で習う三平方の定理です。

このように、勉強をしたくない子がよく言う「こんなもの覚えても、何も役に立たない!」という言葉は、何の説得力もありません。最低限度、義務教育で習う学習内容は、将来どんな仕事についても必要な知識、学力となるのもちろんですが、それらの知識が身につけてないと、生活に困ることになります。

文部科学省のホームページを見ると「義務教育の目的」として、次のようにあります。

- ① 国として、国民としての統一性や水準の維持
- ② 多様な変化の時代を生き抜いていく子どもたち一人一人の個性や特性の基礎づくり

つまり、義務教育で身につける学力は、子供たちが将来、自立したひとりの人間として力強く生きていく上で最低限度身につけていなくては困る基礎となる学力なのです。